

これから住宅を建てられるほとんどの皆様にとって、住宅は、一生に一度の大切な買い物です。その住宅を現金で購入する方はほとんどいませんし、よほどの事情がない限り、住宅を一生のうちにも購入する方も多くはないでしょう。多くの方が一生に一度の大切な買い物として住宅を購入し、ほとんどの皆様が住宅ローンを利用しています。

住宅購入の際に、当たり前のように利用しようとする「住宅ローン」。しかし、住宅ローンは金額が大きく返済期間も長い、返済額が返済期間中は、継続的な支払いで、その後の生活に大きな影響を与えます。

今回は、一般的な住宅ローンの知識はもちろん、素朴な疑問や不安を解消し、皆様のライフスタイルにあった住宅ローンと、何かを取り上げてみたいと思います。

### 賢い住宅ローンの組み方 公的融資の活用。

住宅ローンの種類は、大きく分けると、以下の3種類が主なものとして、

「全期間固定金利型」「固定金利期間選択型」「変動金利型」です。

「全期間固定金利型」は、あらかじめ総支払額が決まっているので、経済の低成長期には、金利が高いように感じられますが、35年という長期の返済には、様々な経済状況が考えられ、金利も変更しますから、金利の高く低で生じる損得より長期的な安心感を選ぶ方が、お勧めできます。

「固定金利期間選択型」を選ぶ場合、その時の金利の状況を見極めながら、当初の固定期間満期後、10年とか20年固定金利と定めたものを次の固定年数を決めたり、あるいは変動型に移行する等、ローン返済期間中に何度か見直しを行わなければなりません。

### 住宅ローンの種類は、3種類あります。

借入時の年齢が若く、固定期間が終了して金利が上昇している場合、金利の見直し時に年齢的に対応できる年代であれば、借り入れの時に最も有利な金利と期間が選択可能ですから、そのような手続きが面倒でない方には、「固定金利期間選択型」もお勧めできます。

「変動金利型」を選ぶ場合は、当初金利が安くても金利が上昇すると利息の額が増加し、元金もなかなか減らないことがあり、経済状況の将来的な予測が必要となります。退職金などのまとまったお金が、近未来に確実に用意できる等、時期がわかっていられる方は、「変動金利型」を選ぶという選択肢もあります。

とにか、冷静にご自分や家族のライフプランに沿ったローン設定が必要で、年齢などによってはおおよそ10年程度、あるいは小さな借り入れプランを選択すべきです。

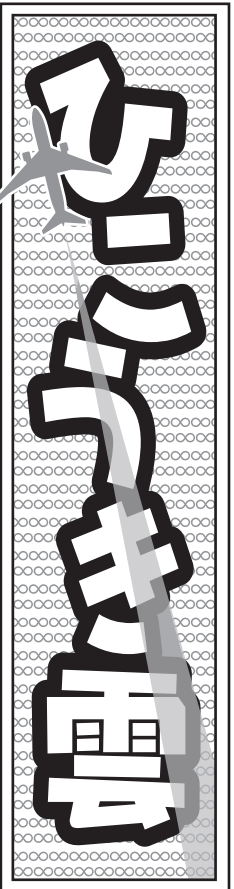
このほか、各プランを組み合わせてみることも可能です。

### 借入時の年齢が若く、固定期間が終了して金利が上昇している場合、金利の見直し時に年齢的に対応できる年代であれば、借り入れの時に最も有利な金利と期間が選択可能ですから、そのような手続きが面倒でない方には、「固定金利期間選択型」もお勧めできます。

# 賢い住宅ローンの基礎知識!

消費税の値上げが、現実のものになりつつある現状で、住宅建築も消費税が低率の内にとり、思いがかりです。

住宅資金はどの様に調達できるか、その方法論について考えてみましょう。



発行所  
株式会社 松下孝建設  
発行人 松下孝行  
編集責任 齋藤恭誠

■本社  
〒891-0108  
鹿児島市中山1丁目14-29  
TEL 099-267-7594  
FAX 0120-079-089

「固定型」と「変動型」を組み合わせた場合は、金利が低下すれば変動分は得ですが、固定分は損をします。この様に、各々のプランのリスクを分散して、最も有利な組み合わせを見つける方法がリスク分散型です。

また、金融機関(「住宅金融支援機構(旧住宅金融公庫)」「住宅金融公庫」)で固定を借りて、民間の金融機関で変動を借りる等の組み合わせもあります。

返済期間終了までの全期間の金利が固定されています。

借入時に、期間全体の返済額がわかるので安心です。

(「住宅金融支援機構(旧住宅金融公庫)」の「フラット35」などは、建設費用や購入費用の80%まで、融資を受けることが可能です。従って自己資金が少なく済みます。

### 各借入れ型のメリットとデメリットの比較。



返済期間中の金融情勢に応じて金利が変動、退職金など短期間に返済可能な場合が有利です。100%融資が可能です。

「変動金利型」

返済期間中の金利上昇とともに返済額が増えます。

△低金利のときに借入する  
△将来の金利上昇とともに返済額が増えます。

「固定金利期間選択型」

返済期間の中で、一定期間の金利が固定されます。民間の金融機関によつては、建築費の大部分、100%融資を受けることも可能です。

「メリット・デメリット」

△固定期間の借入れメニュー(1年・2年・3年・5年・10年)が一般的、その期間中の借入金利は、金融機関ごとに異なる場合も多々あり、また一般的には固定金利期間が長いほど借入金利が高くなります。

△固定金利期間終了後は、その時点の変動金利または再度選択した固定金利期間の金利が適用され、返済額が変更されます。見直し後の返済額の増加には上限がありません。

△低金利のときに借入する  
△将来の金利上昇とともに返済額が増えます。

### 「変動金利型」

返済期間中の金利上昇とともに返済額が増えます。

△低金利のときに借入する  
△将来の金利上昇とともに返済額が増えます。

「固定金利期間選択型」

返済期間の中で、一定期間の金利が固定されます。民間の金融機関によつては、建築費の大部分、100%融資を受けることも可能です。

「メリット・デメリット」

△固定期間の借入れメニュー(1年・2年・3年・5年・10年)が一般的、その期間中の借入金利は、金融機関ごとに異なる場合も多々あり、また一般的には固定金利期間が長いほど借入金利が高くなります。

△固定金利期間終了後は、その時点の変動金利または再度選択した固定金利期間の金利が適用され、返済額が変更されます。見直し後の返済額の増加には上限がありません。

△低金利のときに借入する  
△将来の金利上昇とともに返済額が増えます。

返済期間中の金利上昇とともに返済額が増えます。

△低金利のときに借入する  
△将来の金利上昇とともに返済額が増えます。

「固定金利期間選択型」

返済期間の中で、一定期間の金利が固定されます。民間の金融機関によつては、建築費の大部分、100%融資を受けることも可能です。

「メリット・デメリット」

△固定期間の借入れメニュー(1年・2年・3年・5年・10年)が一般的、その期間中の借入金利は、金融機関ごとに異なる場合も多々あり、また一般的には固定金利期間が長いほど借入金利が高くなります。

△固定金利期間終了後は、その時点の変動金利または再度選択した固定金利期間の金利が適用され、返済額が変更されます。見直し後の返済額の増加には上限がありません。

△低金利のときに借入する  
△将来の金利上昇とともに返済額が増えます。

返済期間中の金利上昇とともに返済額が増えます。

△低金利のときに借入する  
△将来の金利上昇とともに返済額が増えます。

「固定金利期間選択型」

返済期間の中で、一定期間の金利が固定されます。民間の金融機関によつては、建築費の大部分、100%融資を受けることも可能です。

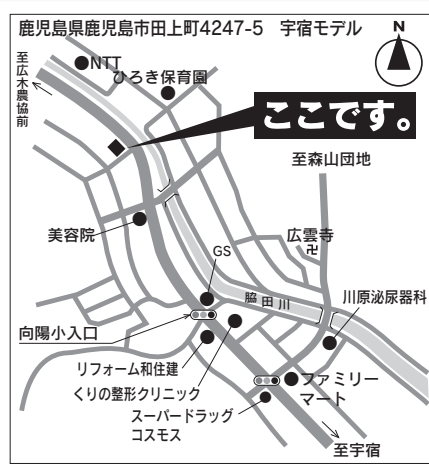
「メリット・デメリット」

△固定期間の借入れメニュー(1年・2年・3年・5年・10年)が一般的、その期間中の借入金利は、金融機関ごとに異なる場合も多々あり、また一般的には固定金利期間が長いほど借入金利が高くなります。

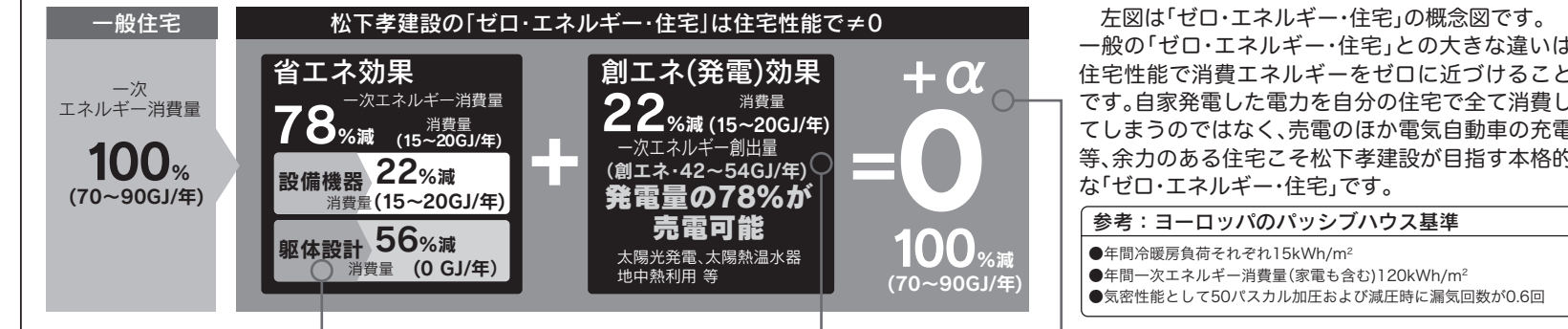
△固定金利期間終了後は、その時点の変動金利または再度選択した固定金利期間の金利が適用され、返済額が変更されます。見直し後の返済額の増加には上限がありません。

△低金利のときに借入する  
△将来の金利上昇とともに返済額が増えます。

# 自立循環型「ゼロ・エネルギー・ハウス」宇宿展示場完成!



## ■松下孝建設、自立循環型「ゼロ・エネルギー・ハウス」の概念■



左図は「ゼロ・エネルギー・住宅」の概念図です。一般の「ゼロ・エネルギー・住宅」との大きな違いは、住宅性能で消費エネルギーをゼロに近づけることです。自家発電した電力を自分の住宅で全て消費してしまうのではなく、売電のほか電気自動車の充電等、余力のある住宅こそ松下孝建設が目指す本格的な「ゼロ・エネルギー・住宅」です。

参考：ヨーロッパのパスシブハウス基準

- 年間冷暖房負荷それぞれ15kWh/m<sup>2</sup>
- 年間一次エネルギー消費量(家電も含む)120kWh/m<sup>2</sup>
- 気密性能として50バスカル加圧および減圧時に漏気回数が0.6回

◎松下孝建設の場合、躯体設計でのエネルギー削減率は56%を目指しています。その根拠は、躯体構造が「次世代省エネルギー基準」温熱環境・省エネルギー対策等級4を、さらに性能アップを行って躯体構造のゼロ・エネルギーを目指しています。エネルギー使用量は設備機器の(15~20GJ)のみの消費を目指しています。

◎松下孝建設の場合、創エネで必要となるエネルギーは設備機器で使用される22%(15~20GJ)のみです。「ネット・ゼロ・エネルギー・住宅」と同じ創エネ量が確保できるとして計算すれば、27~34GJの+α(アルファ)になります。

◎松下孝建設が、「ネット・ゼロ・エネルギー・住宅」と同じ創エネ設備を採用した場合。

**創エネ(42~54GJ)ー設備機器(15~20GJ)=27~34GJ**

※27~34GJの売電が可能です。また、その分、創エネ設備を減らすこともできます。全て売電に回すと下記ようになります。

27GJ=7,500.6kWhx(売電42円)≒315,025円/年

34GJ=9,445.2kWhx(売電42円)≒396,698円/年

J(ジュール)とWhの変換

1 kWh = 3.6 MJ  
1 MJ = 0.2778 kWh  
1 GJ = 277.8kWh

kWh → MJ 変換は 3.6 を掛ける  
MJ → kWh 変換は 0.2778 を掛ける  
GJ → kWh 変換は 277.8 を掛ける  
ですから変換には

これが住宅性能の差 (1面の図と上図の、一次エネルギー消費量の比較)

他社 28~36GJ — 松下孝建設 15~20GJ = 住宅性能差 13~16GJ

※計算上ではこの分+αになります。

住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。

0120-079-089

「表面から続く」  
 メリット・デメリット  
 通常、年2回、金利の見直しが行われます。  
 ○金利が低下すると毎月の返済額のうち、利息の額が減り、元金の額が増えるので、借入金の減りが早くなります。  
 ●金利の見直しが行われても、返済額は5年間そのままで。見直し後の返済額の増加は、通常、25%以内です。そのため、金利が上昇すると、毎月の返済額のうち、利息の額が増え、元金の減りが遅くなります。  
 ●さらに金利が上昇した場合、利息の額が毎月の支払額を超えてしまい、未払利息が生じてしまいます。この場合、借入元金が増え、元金の減りが遅くなります。  
 「全期間固定金利型」「固定金利期間選択型」「変動金利型」



外観

「一年間で10万円の売電に なっています。」  
 T邸は、平成23年の3月に完成した住宅で、ご家族はご夫婦と小2と年長組の男のお子様2人の4人家族。  
 丁度、丸一年を経過した住宅でした。  
 どこで松下孝建設をお知りになりましたか?とお聞きすると、「初めは、主人がインターネットで、この会社がいかも、しれないか?と聞いていたのですが、ここにある会社なのかも判らなかつたのですが、偶然、他社の現場見学会を見に行ったときに、近くに松下さんの現場があって、その後に展示場や現場見学会などに参加して、やはり松下建設にしようということになって建設をお願いしました。」と奥様。  
 「昨年(2011年)の3月に入居して夏と冬を過ごしましたが、冬の光熱費は最高で1万8千円程度支払いましたが、夏は開口部の風通しとエアコンを使わなくても良いくらい快適に過ごす事ができました。」と奥様。

ローン組み方の要点が重要です。  
 住宅ローンを組むときに、まず考えなければいけないのは、借りられる金額ではない、無理なく返せる金額を想定して借り入れなければなりません。無理な返済を避けるためには、借りられる上限を考慮するより、返済できる上限を考慮するべきです。  
 長い人生には、様々な突発的な出来事があります。そのようなことに対応できないほど家計を圧迫するような返済額は避けるべきです。  
 さらに、住宅取得にともなう諸費用も少なくする方法を、自分と家族のライフプランを考えたゆとりのあるプランニングが必要で、  
 標準的な毎月の返済は月収の5分の1が目安とされています。住宅ローンによっては、年収における返済額の割合が決まっているものもあります。

借りのお金の上限を決める。  
 資金計画のタイミングは、物件が決まると同時進行で考えるのがスタンダードと言えます。ただし、頭に入れておかなければならないのは、住宅ローンは「いくら借りられるか」よりも「いくら返済できるか」が大事です。購入する物件や建物の設計にあわせて金額の借り入れを考えると、いくらくらいの住宅ローンであれば、無理なく返済可能かを考える必要があります。それを決めてから、いくらの住宅ローンで建てられるのか、金額を決定してから見合った設計をしていただく方が、無理な

# お施主様T邸(4人家族)「建設地 いちき串木野市」

お施主様ご訪問 「松下孝建設」のお施主様にお聞きしました。

すでに「ゼロ・エネルギー・ハウス」を実現している住宅でした。

太陽光発電を4・2KW取り付けていらっしゃるということ、その発電効果についてお聞きしました。  
 「夏の最盛期には、2万円以上もの売電がありました。通常1万5千円以上はコンスタントに発電してくれまして。ただ、冬には大きく落ちて8千円位になりましたが、年間のトータルでは10万円くらいの売電になってると思います。」とお話でした。  
 それなら「ゼロ・エネルギー・ハウス」を実現していますね、とお聞きすると「本当に、こんなに発電量があるとは思いませんでした。」

一般的なローン8割、自己資金2割。  
 民間金融機関の住宅ローンでは、10割融資や9割融資などの例も珍しくはないようですが、ローン負担が重くなりますので理想的には、自己資金が2割程度あれば、問題は少ないと思います。10割融資の場合は、将来の返済額の上昇リスクも背負うこととなります。  
 総収入に対する割合の上限は、収入によって異なります。収入が高くなれば、当然ながら返済に余裕がある割合が増え、逆に少ない場合は返済額が少なくなります。  
 また、借り入れする場合は、金利と手数料で金融機関を選択する必要があります。金利だけでなく、手数料が高くなる場合もあります。また返済開始後には返済方法を変更する場合の手数料、繰上げ返済時などにも手数料がかかります。マンションの場合、維持管理

馬鹿にならない手数料、諸経費の支払い。  
 忘れてならないのは、各種手数料と諸経費の支払いです。申し込み時にかかる借入手数料、保証会社の保証料、団体信用保険料、火災保険料、地震保険料、また収入印紙や抵当権を設定するための登記手数料と登記専門家への手数料などの諸経費が必要です。また返済開始後には返済方法を変更する場合の手数料、繰上げ返済時などにも手数料がかかります。マンションの場合、維持管理

借換えにもタイミングがあります。  
 借入れ残高が1000万円、残りの返済期間が10年以上、そして金利に1%程度の差がある場合が借換の目安といわれています。ただし借換は、借換後の手数料や全額返済する場合のペナルティ、さらに異なる金融機関に借換をするための抵当権のつけかえ手数料が発生します。その結果、高くついたり、まうこともありますので注意です。  
 「変動金利型」を「全期間固定金利型」に借換するのは、金利上昇時のリスクを避けるなど安心を買うことができて

「フラット35」をお勧めする理由。  
 民間と住宅金融支援機構(旧公庫)が提携した長期固定金利住宅ローン「フラット35」は、現在約200の民間金融機関と提携している「全期間固定金利型」のローンで、新築住宅はもちろん、中古住宅や土地の購入費用も対象になり、平成17年1月4日からは、中古住宅における「新築後10年以内」という要件は撤廃され、適用される住宅の幅がさらに広がりました。平成17年2月1日から竣工後に設計検査及び竣工現場検査を申請して合格すれば、適合証明書が交付される、新築住宅の特例措置も追加されました。  
 「住宅金融支援機構は各民間金融機関から債権という形で買い取る際の、いわば卸金利(債権買取金利)だけを決めていきます。  
 各金融機関はその金利への上乗せ分と手数料を自由に設定していますが、それ以外の条件はすべて(独)住宅金融支援機構の

住宅を建てている時には、主人の任地が徳之島でしたから、建設中も見学に来たのは2度ほどだと思えます。後は全てお任せでお願いしたのですが、こんなに素晴らしい住宅になりました。工事中、見学もできず不安はありませんでしたか?とお聞きすると、「営業担当の方にわざわざ徳之島までおいで頂き契約しましたが、その方の人柄と設計の方の対応の良さで、全て任せても大丈夫だろうという主人の判断でお任せしました。」と奥様。

「松下孝建設で住宅を建てた方は、同じ価値観を共有しているから友達になってしまいませんか。住宅経費が安いという事は、とても助かります。  
 将来の設備の更新も太陽光発電で稼ぎ出したお金で賄うことができるのではないのでしょうか。年間10万円も稼がしめてくれるのですから、20年で200万円ストックできますね。その上、光熱費分も貯蓄できるわけですから

「松下孝建設で住宅を建てた方は、同じ価値観を共有しているから友達になってしまいませんか。住宅経費が安いという事は、とても助かります。  
 将来の設備の更新も太陽光発電で稼ぎ出したお金で賄うことができるのではないのでしょうか。年間10万円も稼がしめてくれるのですから、20年で200万円ストックできますね。その上、光熱費分も貯蓄できるわけですから

「フラット35」には、住宅性能によって「フラット35」(S(セシャル))など、金利が有利になるものや「長期優良住宅」など、住宅の性能条件を満たすことで金利に大きな特典が得られるものがあります。  
 建築計画がございましたら、是非一度、松下孝建設にご相談下さい。皆様の満足のいく住宅性能と資金計画でお応え申し上げます。



T邸、奥様とお子様



リビング

「主入の転勤で、方々の借家やアパートにも住みましたが、どこに行っても冬は結露で窓ふきが大変でした。この家は一切結露がありません。開口部が多いので、キッチンで炊事をしながら外の景色の変化を楽しむこともできます。冬も寒さを感じることがなく、毎日がとても快適です。  
 夏は夏で、窓を開けると風が通るのでとても快適です。太陽光発電は、子供達も興味津々で発電している様子がモニターで確認できますから、無駄な電気を消したりして、家の省エネを管理してくれています。自分の家で発電できるのですから、抜群の省エネ教育になりますね。」

「松下孝建設で住宅を建てた方は、同じ価値観を共有しているから友達になってしまいませんか。住宅経費が安いという事は、とても助かります。  
 将来の設備の更新も太陽光発電で稼ぎ出したお金で賄うことができるのではないのでしょうか。年間10万円も稼がしめてくれるのですから、20年で200万円ストックできますね。その上、光熱費分も貯蓄できるわけですから

「松下孝建設で住宅を建てた方は、同じ価値観を共有しているから友達になってしまいませんか。住宅経費が安いという事は、とても助かります。  
 将来の設備の更新も太陽光発電で稼ぎ出したお金で賄うことができるのではないのでしょうか。年間10万円も稼がしめてくれるのですから、20年で200万円ストックできますね。その上、光熱費分も貯蓄できるわけですから

和室

「表面から続く」  
 メリット・デメリット  
 通常、年2回、金利の見直しが行われます。  
 ○金利が低下すると毎月の返済額のうち、利息の額が減り、元金の額が増えるので、借入金の減りが早くなります。  
 ●金利の見直しが行われても、返済額は5年間そのままで。見直し後の返済額の増加は、通常、25%以内です。そのため、金利が上昇すると、毎月の返済額のうち、利息の額が増え、元金の減りが遅くなります。  
 ●さらに金利が上昇した場合、利息の額が毎月の支払額を超えてしまい、未払利息が生じてしまいます。この場合、借入元金が増え、元金の減りが遅くなります。  
 「全期間固定金利型」「固定金利期間選択型」「変動金利型」

ローン組み方の要点が重要です。  
 住宅ローンを組むときに、まず考えなければいけないのは、借りられる金額ではない、無理なく返せる金額を想定して借り入れなければなりません。無理な返済を避けるためには、借りられる上限を考慮するより、返済できる上限を考慮するべきです。  
 長い人生には、様々な突発的な出来事があります。そのようなことに対応できないほど家計を圧迫するような返済額は避けるべきです。  
 さらに、住宅取得にともなう諸費用も少なくする方法を、自分と家族のライフプランを考えたゆとりのあるプランニングが必要で、  
 標準的な毎月の返済は月収の5分の1が目安とされています。住宅ローンによっては、年収における返済額の割合が決まっているものもあります。

馬鹿にならない手数料、諸経費の支払い。  
 忘れてならないのは、各種手数料と諸経費の支払いです。申し込み時にかかる借入手数料、保証会社の保証料、団体信用保険料、火災保険料、地震保険料、また収入印紙や抵当権を設定するための登記手数料と登記専門家への手数料などの諸経費が必要です。また返済開始後には返済方法を変更する場合の手数料、繰上げ返済時などにも手数料がかかります。マンションの場合、維持管理

借換えにもタイミングがあります。  
 借入れ残高が1000万円、残りの返済期間が10年以上、そして金利に1%程度の差がある場合が借換の目安といわれています。ただし借換は、借換後の手数料や全額返済する場合のペナルティ、さらに異なる金融機関に借換をするための抵当権のつけかえ手数料が発生します。その結果、高くついたり、まうこともありますので注意です。  
 「変動金利型」を「全期間固定金利型」に借換するのは、金利上昇時のリスクを避けるなど安心を買うことができて

「フラット35」をお勧めする理由。  
 民間と住宅金融支援機構(旧公庫)が提携した長期固定金利住宅ローン「フラット35」は、現在約200の民間金融機関と提携している「全期間固定金利型」のローンで、新築住宅はもちろん、中古住宅や土地の購入費用も対象になり、平成17年1月4日からは、中古住宅における「新築後10年以内」という要件は撤廃され、適用される住宅の幅がさらに広がりました。平成17年2月1日から竣工後に設計検査及び竣工現場検査を申請して合格すれば、適合証明書が交付される、新築住宅の特例措置も追加されました。  
 「住宅金融支援機構は各民間金融機関から債権という形で買い取る際の、いわば卸金利(債権買取金利)だけを決めていきます。  
 各金融機関はその金利への上乗せ分と手数料を自由に設定していますが、それ以外の条件はすべて(独)住宅金融支援機構の

「松下孝建設で住宅を建てた方は、同じ価値観を共有しているから友達になってしまいませんか。住宅経費が安いという事は、とても助かります。  
 将来の設備の更新も太陽光発電で稼ぎ出したお金で賄うことができるのではないのでしょうか。年間10万円も稼がしめてくれるのですから、20年で200万円ストックできますね。その上、光熱費分も貯蓄できるわけですから

土地・建物で融資限度額は、5000万円です。  
 借入れ時に返済終了までの返済額が確定するので、その後の金利に左右されず安心です。通常のローンで必要な経費がからなかったり、繰上げ返済などの手数料もかかりません。  
 民間ローンの場合、物件や職業によって融資金額が違ったり、場合によっては融資が認められないなどということがあります。「フラット35」は、職業などによって融資額が違わないこと、条件が満たしている場合は誰でも利用できます。  
 提携民間金融機関での「フラット35」の商品名は、それぞれ違いますが、「機構提携型」と表示されています。  
 金融自由化によって、現在ではインターネット銀行など、「フラット35」を取り扱っています。金利や手数料もそれぞれ異なりますから、窓口の場所や取引状態などを考慮に入れ、利用しやすい金融機関を選択することをお勧めいたします。

資金計画のご相談も、松下孝建設が承ります。  
 「フラット35」には、住宅性能によって「フラット35」(S(セシャル))など、金利が有利になるものや「長期優良住宅」など、住宅の性能条件を満たすことで金利に大きな特典が得られるものがあります。  
 建築計画がございましたら、是非一度、松下孝建設にご相談下さい。皆様の満足のいく住宅性能と資金計画でお応え申し上げます。

「松下孝建設で住宅を建てた方は、同じ価値観を共有しているから友達になってしまいませんか。住宅経費が安いという事は、とても助かります。  
 将来の設備の更新も太陽光発電で稼ぎ出したお金で賄うことができるのではないのでしょうか。年間10万円も稼がしめてくれるのですから、20年で200万円ストックできますね。その上、光熱費分も貯蓄できるわけですから

「松下孝建設で住宅を建てた方は、同じ価値観を共有しているから友達になってしまいませんか。住宅経費が安いという事は、とても助かります。  
 将来の設備の更新も太陽光発電で稼ぎ出したお金で賄うことができるのではないのでしょうか。年間10万円も稼がしめてくれるのですから、20年で200万円ストックできますね。その上、光熱費分も貯蓄できるわけですから

「松下孝建設で住宅を建てた方は、同じ価値観を共有しているから友達になってしまいませんか。住宅経費が安いという事は、とても助かります。  
 将来の設備の更新も太陽光発電で稼ぎ出したお金で賄うことができるのではないのでしょうか。年間10万円も稼がしめてくれるのですから、20年で200万円ストックできますね。その上、光熱費分も貯蓄できるわけですから